

マンツーマン推進プロジェクト 講習会資料

2021/4月

マンツーマン推進プロジェクト

1. 講習の目的と2021年現在の方向性
2. マンツーマン推進の意義・目標
3. マンツーマンディレクター・マンツーマンコミッショナー
4. マンツーマン推進における基準規則・運用
5. マンツーマンコミッショナーの対応（事例を元に）
6. マンツーマン推進における都道府県内での組織について

1) 講習の目的

- ①マンツーマン推進に対して理解を深める。
- ②子供たちの成長を促すためにマンツーマンコミッショナーをはじめ、バスケットボールに関わる全ての方に対して「健全な競技環境整備の推進」について情報を共有する。

2) マンツーマン推進の目的・方向性 (2018/12/15)

- ①フェアプレー精神を指導者/プレーヤーに浸透させる
- ②マンツーマン推進事業を継続する
- ③指導者はマンツーマン推進事業の目的を再認識する
- ④指導者は基本技術の重要性の理解を深める
- ⑤指導者は育成世代で学ぶべきゲームモデルの理解を深める
- ⑥コミッショナーは統一した見解を持つために情報共有の図り研鑽を積む

2020年度以降の方向性（2019/12/15確認、2020/12/13再確認）

【総論】

「マンツーマンかゾーンかを判定すること」がコミッショナーの役割であることを確認。
マンツーマン推進を考慮しつつ、基準規則に準拠した役割を果たしていくこと。
コミッショナー配置は当面継続する。

【U12】

全国ミニバスケットボール大会、ブロックミニバスケットボール大会において
コミッショナー配置を実施。
厳しく取り締まる方向性ではなく、「技術不足は罰しない」方針を確認する。

【U15】

「心情を加味せず、現象面を捉えて判定すること」を継続する。
全国U15選手権プレ大会（2019年度）、全国U15選手権（2020年度）、全中ブロック予選、
全中においてコミッショナー配置を実施。

1) 背景

- ①世界の強豪国は16歳以下、また国際バスケットボール連盟（FIBA）もミニバスケットボールでのゾーンディフェンスを禁止している。
- ②2014年頃では日本の多くのU12チームがゾーンディフェンスを導入しており、またU15チームにおいても多くがゾーンディフェンスを中心に試合を組み立てている。
- ③15歳まではコーディネーショントレーニングや基礎的なスキルを学ぶべき年代であるが、ゾーンディフェンスを主に指導されているため、オフェンス、ディフェンスの両面において、1対1の対応力が不足している。

2) 趣旨

- ①「プレイヤーズ・センタード・コーチング」「育成マインド」の考えの元、目先の勝利に捉われない長期的視点に立った指導の推進。
- ②バスケットボールの楽しさの強調、個の育成を進めるための競技環境整備。

3) 目標

- ①強力な1対1の突破力、得点力のある選手を育成する。
- ②ディフェンスで相手を止められる選手を育成する。
- ③高い運動能力を持ち、オールラウンドプレーとして活躍できる選手を育成する。
- ④マンツーマンディフェンスの強化により、将来的にゾーンディフェンスの活用を含めた総合的なディフェンス力の強化を図る。

4) 個の育成とは何か? (2018/12/15)

獲得させたい土台（スキル）：個人のオンボールのオフェンス・ディフェンス、
オフボールのオフェンス・ディフェンスを身につけ向上させること。

- オンボールオフェンス : 個人で破っていく力、得点を取る力
→ ショット、ドライブ、パス、1対1の駆け引き
- オンボールディフェンス : 個人で守りきる力
→ ショット、ドライブを止める（インラインを守り続ける）
- オフボールオフェンス : スペーシング・タイミング
→ どこにいるか、どこへ動くか
→ いつ動くか
- オフボールディフェンス : ポジショニング・ビジョン・予測する力
→ マークマンをノーマークにしない
→ ボールマンディフェンスを助ける
→ ボールとマークマンを常に捉える

1) マンツーマンディレクターの目的・要件・役割・位置づけ

<設置目的>

- ①都道府県において、マンツーマンの趣旨や導入目的を指導者及び選手に浸透させ、子供たちのためにより良い競技環境整備を推進すること。
- ②日本全国において、一貫した基準でのマンツーマンの推進を行うこと。

<資格要件>

- ①バスケットボール競技特性を熟知し、役割を担える者。
- ②JBAコーチライセンス保有者（C級以上が望ましい）

<役割>

- ①都道府県協会において、マンツーマン推進の中心的役割を担う。
- ②都道府県内において、マンツーマン推進の趣旨、導入目的を指導者および選手等に伝達する。
- ③都道府県内において、マンツーマンを推進するための講習会を企画・立案し、指導者およびマンツーマンコミッショナーの育成・強化を図る。
- ④JBAおよび都道府県内の関連団体（中体連等）と連携し、情報発信・収集を行うとともに、円滑なマンツーマンの推進を図る。
- ⑤（必要に応じて）アシスタントディレクターの養成を行う。

<位置づけ>

- ①都道府県アンダーカテゴリー部会内に設置。

マンツーマンディレクターの設置目的

- 都道府県内においてマンツーマンの趣旨や導入目的を指導者および選手に浸透させ、子供たちのためにより良い競技環境を構築すること。
- 日本全国において一貫した基準でのマンツーマンの推進を行うこと。

マンツーマンディレクターの資格要件

- バスケットボール競技特性を熟知し、以下の役割を担える者
- JBAコーチライセンス保有者（C級以上が望ましい）

マンツーマンディレクターの主な役割

- 都道府県協会において、マンツーマン推進の中心的役割を担う。
- 都道府県内において、マンツーマン推進の趣旨、導入目的を指導者および選手等に伝達する。
- 都道府県内において、マンツーマンを推進するための講習会を企画・立案し、指導者およびマンツーマンコミッショナーの育成・強化を図る。
- JBAおよび都道府県内の関連団体（中体連、中学生連盟、ミニ連盟等）と連携し、情報発信・収集を行うとともに、円滑なマンツーマンの推進を図る。
- （必要に応じて）アシスタントディレクターの養成を行う。

その他

- 都道府県協会とJBAとの窓口を一本化するためにマンツーマンディレクターは各都道府県協会1名としますが、各協会においてディレクターの補佐を行うアシスタントディレクターを設置していただいても構いません（人数制限も行いません）。各都道府県の状況に応じて円滑な推進が可能な体制の構築をお願い致します。

2) マンツーマンコミッショナーの役割・視点

<役割>

- ①ゲームにおいて、マンツーマン推進を図るために、マンツーマンかゾーンかを見極める。
- ②起こっている事象に対して客観的に判定をする。

■ マンツーマンコミッショナーの重要な視点 (2018/12/15)

- 1) マッチアップしているか、または、マッチアップしようとしているか
(人=マンツー、場所=ゾーン)
 - オフェンスのスタート
 - カッティングに対して、適切にマークしているか (ついていってるか)
 - トラップの後
 - ペネトレーションに対するヘルプの後

- 2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン (ボールとマークマン) を適切に実行しているか

2) マンツーマンコミッショナーの判定基準の考え方 (2019/5/7)

●考え方

コミッショナーは、ゲームの状況を考慮しながら判定を行うべきではなく、事象のみに対して客観的に判定する。

●理由

心情やゲーム状況を考慮に入れながら判定することは、判定者の主観が大きく含まれることになり、判定基準の幅が広がることに繋がり、明確性に欠けることになる。

●今後

ゲームにおいてコミッショナーが判定する際の考え方（事象のみに対して客観的に判定する）を周知徹底する。

ルールの変更ではないため、できる限り速やかに実施運用をお願いする。

1) なぜU12とU15で異なるのか

- ・ U12とU15で発達段階、バスケットボールの習熟度が異なるため。
- ・ U12では1985年～1988年にゾーン禁止を行ったが撤廃した経緯がある。マンツーマンの定義をより明確にすることで、指導者への理解を図り、個の成長を支える土台をつくる目的がある。
- ・ U15では制限のないバスケットボールが次の世代（高校世代）から始まることを考慮して、U12より自由度を高めることを許容している。

2) 共通

- ・ 黄旗は注意を促す。
- ・ 赤旗対応
 - ブザーを鳴らし時計を止める。
 - 攻守交代の時点でプレー・ショットクロックを止めるため、その後に起こったことは無効。
- ・ テクニカルファウル処置（2019/3）
 - マンツーマンペナルティとテクニカルファウルの考え方を整理。
- ・ マンツーマンペナルティの処置（2019/12/15）
 - テクニカルファウルの処置変更に伴う対応。

3) U12とU15の相違点

- ・ トラップ三要件（U12）
- ・ 技術不足は罰しない（U12）
- ・ 予測に基づいていると判断した場合は旗をあげない（U15）
- ・ 4Q、OTの最後の2:00における違反は1回目でも赤旗の対象とできる（U15）
- ・ 4Q、OTの最後で赤旗があがったまま次元が終了した際に、フリースローを行っても勝敗に関係のない場合は処置をしない（U15）
- ・ マンツーマンペナルティによる退場：U12は3個、U15は2個

U12U15
マンツーマン推進における
テクニカルファウル対応変更について

2019/3

マンツーマン推進プロジェクト

1. インテグリティ委員会の経緯

- ・ 2018年12月25日 インテグリティ委員会設立(委員長:宇田川貴生) をJBA理事会で承認
- ・ 2019年1月28日 第1回インテグリティ委員会開催

2. 第1回インテグリティ委員会における決定内容

- ・ JBA含め全ての団体における共通スローガン(主題)として【クリーンバスケット、クリーンゲーム】を決定した。
- ・ JBAとしては副題として喫緊の課題である【暴力暴言根絶】とした。
- ・ 委員会としてスローガンを実現していくために以下を決定した。
 - 1) バナーを作成して大会においてメッセージを発信し、啓発活動を実施(2019年3月ジュニアオールスター、全国ミニ、4月より全国にて)
 - 2) コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言は競技規則に則りテクニカルファウル(C)として取り扱うことを確認した。
 - ※ 今までテクニカルファウルの運用としてコーチが選手に対する暴言等をテクニカルファウルの対象として取り扱っていなかった。
 - ※ 暴力行為に対しては、ディスクォリファイングファウルとして失格退場である。
 - 3) 競技規則によりテクニカルファウル(C) 2個で失格退場となるが、規律案件(次の試合出場停止等)とはせず当該試合のみの対応とする。
 - ※ 競技規則によるコーチの失格退場
 - a) ディスクォリファイングファウル 1個
 - b) テクニカルファウル(C) 2個
 - c) テクニカルファウル(B) 3個
 - d) テクニカルファウル(C) 1個+テクニカルファウル(B) 2個
 - 4) テクニカルファウルの対象となる暴力的行為及び暴言に関する事例集(ガイドライン)は、指導者養成・ユース育成部会で原案作成し、インテグリティ委員会で承認するものとする。

1. テクニカルファウルの扱い

- 1) 試合中、コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言に対しては、
コーチのテクニカルファウル(C)とする。
- 2) コーチのテクニカルファウル(C) 2個で失格退場とする。
※ U12ではこれまでテクニカルファウルによる失格退場はなかった。

2. マンツーマン推進のテクニカルファウル

- 1) マンツーマン推進における「赤旗対応によるテクニカルファウル」については
「マンツーマンペナルティ(M)」とする。
※ 競技規則に準じたテクニカルファウルと区別するため（マンツーマンペナルティは国内独自ルール）
1. マンツーマンペナルティの場合、スコアシートコーチ欄に(M)と記述する
2. マンツーマンペナルティ(M)は、U12においては3個で失格退場とする。
3. 失格退場に対しては規律案件としない。
4. マンツーマンペナルティ(M)とテクニカルファウル(C・B)との合算による失格退場は設定しない。

■ コーチ失格退場のケースにおけるU12での対応 ※1

コーチライセンス資格を持つコーチが失格退場となった場合の試合継続の可否については競技規則に則り没収試合の扱いとしない。

※ 競技規則ではコーチが失格退場の場合、キャプテンが代行することになっている。

1. ベンチにヘッドコーチの他にアシスタントコーチをおく。 ※2
2. アシスタントコーチがいない場合はチーム代表者や保護者代表をベンチ登録すること。

※1 大会要項に記載しておくことが望ましい。

※2 複数の指導者がコーチライセンス資格を持っていることが望ましい。

1. テクニカルファウルの扱い

- 1) 試合中、コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言に対しては、
コーチのテクニカルファウル(C)とする。
- 2) コーチのテクニカルファウル(C) 2個で失格退場とする。

2. マンツーマン推進のテクニカルファウル

- 1) マンツーマン推進における「赤旗対応によるテクニカルファウル」については
「マンツーマンペナルティ(M)」とする。

※ 競技規則に準じたテクニカルファウルと区別するため（マンツーマンペナルティは国内独自ルール）

1. マンツーマンペナルティの場合、スコアシートコーチ欄に(M)と記述する
2. マンツーマンペナルティ(M)はU15においては2個で失格退場とする。
3. 失格退場に対しては規律案件としない。
4. マンツーマンペナルティ(M)とテクニカルファウル(C・B)との合算による失格退場は設定しない。

■ コーチ失格退場のケースにおけるU15での対応 ※1

コーチライセンス資格を持つコーチが失格退場となった場合の試合継続の可否については競技規則に則り没収試合の扱いとしない。

※ 競技規則ではコーチが失格退場の場合、キャプテンが代行することになっている。

1. ベンチにヘッドコーチの他にアシスタントコーチをおく。 ※2
2. アシスタントコーチがいない場合はチーム代表者等をベンチ登録すること。
3. コーチの失格退場によりベンチに指導者/代表者が不在となった場合、会場主任/コート主任等がベンチに入ることも可とする。 ※3

※1 上記項目を大会要項に記載しておくことが望ましい。

※2 複数の指導者がコーチライセンス資格を持っていることが望ましい。

※3 選手に試合の責任を負わせることは負担が大きいとの配慮からの処置である。大会において取り入れの可否を主催者が取り決めすることで構わない。

■ マンツーマンペナルティの罰則変更について（2019/12/15）

【2回目の赤旗が上げられた際の処置】

- ・ 2018年度まで
種類：テクニカルファウル
罰則：1ショット+スローインで再開
- ・ 2019年度から
種類：マンツーマンペナルティ
罰則：1ショット挟み込み（テクニカルファウルの罰則を準用）
- ・ これらの変更に伴い、マンツーマンペナルティが宣せられた際、1本のフリースローが与えられた後、違反したチームのスローインから再開されるケースが多くなった。

【罰則変更】

- ・ 2020年度から
種類：マンツーマンペナルティ
罰則：1ショット+スローインで再開（マンツーマンペナルティ独自の罰則）

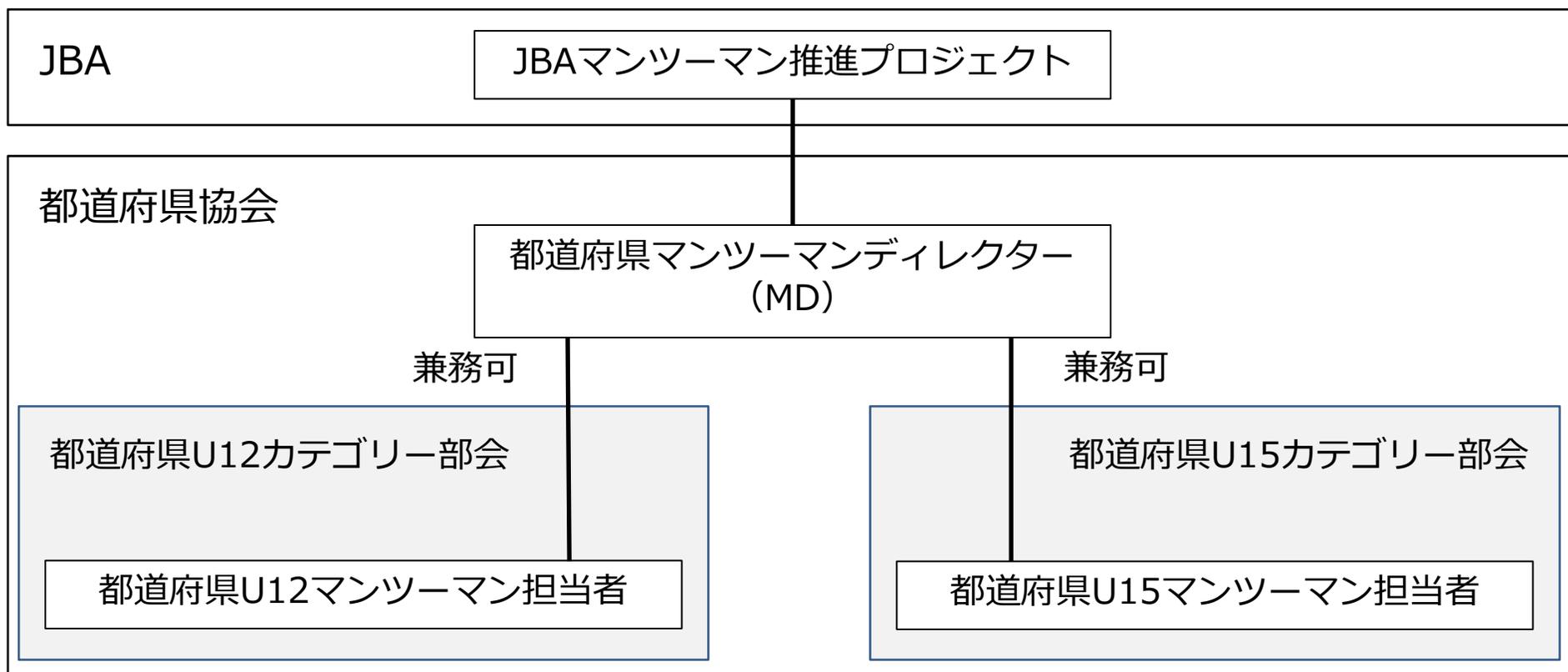
5. マンツーマンコミッショナーの対応（事例を元に）

1. U15における対応ケースと対応としないケース
2. U12における対応ケースと対応としないケース

6. マンツーマン推進における都道府県内での組織

- ・ U12部会、U15部会にまたがるマンツーマン担当を設置し、マンツーマンディレクターを設置する。
- ・ U12部会、U15部会において、マンツーマンコミッショナーを統括する担当を置く。
- ・ マンツーマンディレクターは所管事項（役割）を確認し、都道府県内のマンツーマン推進について講習会を企画する。

※ マンツーマン推進の独立した組織は設置せず、必ずU12/U15の各カテゴリー内に担当者を置いてください。



6. マンツーマン推進における都道府県内での組織

■ 都道府県U12/U15カテゴリー部会の組織図（大阪府U15カテゴリー部会の例）

- ・ 都道府県U12/U15カテゴリー部会内に、マンツーマン推進担当者を置いてください。
- ・ U12/U15の担当者は、MDと兼務でも結構です。

一般財団法人大阪府バスケットボール協会 U15部会 組織図

令和2年3月9日現在

